女子保健委員が測るおちんちん測定

都内にある桜ヶ丘学園は、緑豊かな丘の上に建つ中高一貫の共学校だ。創立から100年以上の歴史を持ち、個性豊かな行事で知られている。その中でも、特に異彩を放つのが、毎年夏に行われる「夏季健康測定会」の一環として位置づけられた「夏季男性器発育確認検査」――通称「おちんちん長さ測定」である。

検査の対象は中高生の男子全員。測定を担当するのは、保健委員に選ばれた女子生徒たち――主に2年生と3年生から選出される。測定項目は

2つで、平常時の長さと勃起時の長さ。メジャーで根元から先端までを測る。

勃起時の測定では、男子が自然に勃起するのを待つのではなく、担当の保健委員女子が「軽く握る」ことで勃起させる。思春期の男子たちのほとんどは、こ握られた瞬間に即座に反応してしまう。

さらに、見学制度がある。希望した女子生徒はこの測定に立ち会うことができる。この制度の目的は「男女間の相互理解を深める」らしいが、男子にとっては屈辱的で、女子にとっては好奇心を満たす機会となっている。

7月16日。朝のホームルームが終わると、男子たちの間で緊張した空気

が広がった。中西悠斗は、普段は女子と話すのも苦手だ。去年の測定で、おちんちんを握られた瞬間に体が震えてしまい、担当の女子に「大丈夫ですか？」と心配されたのを思い出す。

「またこの時期か……」

悠斗は心の中で呟いたが、すでに下腹部に微かな緊張を感じていた。

一方、保健室では保健委員の女子たちが準備を進めていた。委員長の高橋彩花は、3年生のリーダー格。黒髪をポニーテールにまとめ、白衣の下に制服を着込んだ姿は、まるで本物の看護師のようだ。彼女の隣に立つ佐藤美咲も3年生。去年の経験から、

男子たちの反応パターンを熟知している。

「今年は25人ずつ分担ね。平常時から勃起時まで、しっかりとやるよ」

彩花が皆に指示を飛ばす。見学希望の女子たちはすでに十数人集まっていた。男子のおちんちんを見たい、という好奇心がほとんどの動機だ。中には、特定の男子を狙って来る者もいる。

「藤原くん、今年は何センチかな……」

誰かが小声で囁き、くすくす笑いが漏れた。